

郡市名	年 末 現 在			前年ニ比シ増減(△印ハ減)			年 内 異 動			
	耕 地	田	畑	耕 地	田	畑	擴張	實測	潰廢	實測
水戸	三九七・三反	一三二六反	二五五七反	△一五・六反	四・三	△一九・九	一反	一反	一五・六反	一
東茨城	二〇、四六・七	七、〇六・七	一三、八〇・〇	一八・一	△一六・一	二四・二	三六・七	—	五五・〇	三・六
西茨城	一〇、三九・二	五、〇四・六	五、三五・六	二・八	△一四・〇	二四・〇	二五・八	二五・三	三五・三	—
那珂	一八、七五・二	五、七四・九	一三、〇〇・三	五・五	△四・七	五・二	一八・二	三・五	一三・四	五・八
久慈	一四、三六・四	六、七三・八	七、六四・六	△一七・八	△一九・六	一・八	三〇・三	〇・三	四七・四	一・〇
多賀	一六、六六・八	三、七七・二	三、八九・六	△二・二	△	五・五	三三・五	〇・一	三六・八	—
鹿島	一六、二二・二	六、〇三・三	三、八九・六	△二・二	△	五・五	三三・五	〇・一	三六・八	—
行方	一〇、五九・二	五、九三・〇	四、四七・二	七〇・八	△一七・一	一・五	二〇・六	〇・三	二八・九	—
稲敷	三三、七四・七	一三、四四・八	九、四九・九	一〇五・一	△一六・〇	二七・七	二四・三	—	一四・二	—
新治	二二、四四・二	九、四六・三	二、一九・九	二二・七	△	二七・七	一七・五	〇・一	六・九	—
筑波	一五、二四・八	七、二五・九	八、〇六・九	五・二	△一九・三	三三・九	〇・八	二六・〇	五五・六	—
眞壁	一九、〇三・八	九、四九・六	九、八七・二	三〇・五	△一五・四	一五・一	七・七	—	四三・二	—
結城	一六、三三・〇	六、二五・二	一〇、二五・八	三・四	△二・七	三・七	八・九	—	四七・五	—
猿島	一六、二六・三	四、三六・七	二、七四・六	五・五	△一〇・〇	六・五	九・八	—	四三・三	—
北相馬	八、六八・〇	四、八二・三	三、八七・七	六・五	△元八	二・三	五・五	一〇・〇	四六・一	九・九
合 計	二八、三六・八	一〇、六〇・九	一三、六六・九	八八・六	△一四・九	七五・七	一、七七一	三六・八	八八四・〇	二〇・三

全 國 の 米 收 穫 高

農林大臣官房統計課発表

尙参考の爲最近五箇年間に於ける作付段別及收穫高を掲ぐれば左の如し

昭 和 年 号	(作 付 段 別)	(收 穫 高)
昭 和 四 年	三、二一〇、六〇四・一 _反	五九、五五七、六九四
昭 和 五 年	三、二二九、三二一・六	六六、八七五、九三五
昭 和 六 年	三、二四八、七一九・五	五五、二一五、二六三
昭 和 七 年	三、二五七、〇〇九・四	六〇、三九〇、〇九八
昭 和 八 年	三、一七三、二〇三・三	七〇、八二九、一一七
昭 和 九 年	三、二二五、七七一・六	六二、五七三、五四二
自昭四年至同八年平均	三、一七二、八七三・九	五七、〇二六、七八〇
同第一回豫想收穫高	—	—
同第二回豫想收穫高	—	五〇、七四六、一四〇

昭和九年に於ける米收穫高は五千八百八十三萬九千六百二十九石にして之を前年收穫高に比すれば千八百九十八萬九千四百八十八石(二割六分八厘)を前五箇年平均收穫高に比すれば千七百七十三萬三千九百三十三石(一割七分二厘)を減少せり

而して其の作付段別は三百七十七萬二千八百七十三町九段にして全國平均一段歩收穫高は一石六斗三升四合に當る

蓋し本年の稲作は東北方面に於ては氣候冷涼の爲生育著しく阻害せられたるものあり、又九州四國方面に於ては降雨極めて少く旱害發生するに至り九月二十日現在に於ける第一回豫想は五千七百二萬六千七百八十石と豫想せられたり、而して右第一回豫想直後暴風雨の大被害あり、其の後の氣候も概して低溫寡照にして適順を缺きたる爲登熟阻害せられたるものありて、十月末日現在に於ける第二回豫想に於ては第一回豫想に比し六百二十八萬六百四十石の減少を示せり、然れ共、其の後の天候概して順調なりしと被害の見積大なるものありしとに因り實收高に於ては、第二回豫想に比し百九萬三千四百八十九石(二分二厘)の増加を示せり

(備考) 本年作付段別に於て曩に發表したるものと相違あるは今

回沖繩縣の第二期作分を加へたと其の後訂正報告の地方ありたるに由る

昭和九年米收穫高

總數	北海	東北區	關東區	北陸區	東山區	東海區	近畿區	中國區	四國區	九州區	收 穫 高		第二回豫想收穫高ニ比シ		前年收穫高ニ比シ		前五箇年平均收穫高ニ比シ																																																																		
											收	高	増	減	増	減	増	減																																																																	
五、八三九、六二九	一、七七四、八九六	五、一四二、九二二	一、五二二、八三二	一、二二九、二四〇	一、二六一、三八六	一、九二五、〇六〇	一、一六五、三三三	五七七、三〇三	一、一六六、七六四	一、九一〇、三二四	四二五、九〇一	二、七七八、七五九	一、四八六、一九九	一、〇五一、五九四	九一六、九四二	一、〇九三、四八九	二、九六六	三、〇九三	五〇、七七〇	一、八一八	一、一八九	一、〇二二、九七八	六九九、〇七九	一、一七一、一六七	一、〇一九、三七八	一、四〇、四八九	五二六、一八六	三六〇、六五八	二九一、七一九	一一、八七三	四二、〇五一	八八、四九二	一、四七八、一六九	四二八、八八六	二二三、八四八	二二〇、三七〇	八七、八〇三	四七七、四六九	三七九、四六二	二九四、八七四	七四一、八六九	三九四、〇九一	三〇〇、七四七	一二五、九一五	二九〇、二九七	四三三、〇一八	一〇一、〇四二	一四六、七四五	一七〇、六六五	一七九、三四〇	三四八、三八五	五二、五四一	二二一、五二〇	二〇〇、八八七	三〇三、〇九六	四六四、七七一	一〇九、二四七	五六五、〇二四	一二四、〇〇一	一〇七、四〇六	八七、八〇三	四九二、二三五	二二二、九三九	二二〇、八一三	一三一、五四九	一三一、五〇四	四九〇、四〇〇	一九六、一一〇	二四六、一七四	四〇、〇八八	八六、〇六七	一二三、七一〇	七八、〇五八	一四九、二六七	九八、〇七九	一五四、一〇一	一三二、〇八七	一四五、五五一	三四二、八七七	一六、六五四	二七一、六四三	一〇二、一三〇	一一、九〇四

熊本	一、五八〇、二五〇	一、一六、五一〇	△	四一三、八三三	△	一七〇、〇七五
大分	一、〇九一、六二二	六五、九一二	△	三五二、五九〇	△	一〇七、〇三二
宮崎	七四二、〇三〇	四九、四九〇	△	二六四、三二七	△	二二九、三〇〇
鹿兒島	九〇八、九四一	七三、九九一	△	五四九、八三六	△	四一六、七九三
沖繩	一一三、九三五	八七五	△	一三、九〇七		三八、九九八



作物を友として…… 朝から晩まで

行方方郡武田村
統計調査員 境 勇

して居る田や畑などの地が頭の中に浮び来て、實地と圖形と合致するなど一種の趣味をすら感ずるのであります。

今回茨城統計協會の設立と共に「茨城統計」の發刊せられました事は、吾々調査員の誠に欣快とし、本誌の益々發展せられん事を切望して止まない次第であります。

惟ふに統計も相當趣味を以てすれば其の調査するもの皆計數に現はれ、且つ物の基礎を握る事が出來て仕上げた後の快感は何ものにもたとへやうがな

ものに比して其の重さの反比例する事に實感しました。
云ふ迄もなく米としての量は一升に付き、其の目方の重い下作産籾の方が籾摺歩合が多く即ち米の量が多くなります。又粳籾に比し糯籾の方が量重の共に少き事は亦云ふ迄もありません。
此の例は旱水の被害籾、又は旱、水害を少しでも受けたと思ふ籾意外の、水利共に適當にして刈り取りも適期なりし物を指示するものです。勿論旱水被害地の産籾は非常に量重少く是れは例外です。

吾等は實地体験調査研究の結果坪刈に得たる各作計數に依つて何反何畝何歩と各作別に算出調査の結果を統計報告するものなれば、創刊號紙上に論議されてありましたやうに本縣産米豫想收穫高に付き、他方面から批難の聲を見た様ですが、吾々調査員としては最善の努力と研究心を以て眞剣なる調査

いといつてよからう。例へば米生産統計調査にしても、彼の何十枚かの字切見取り圖を製圖するに當りて、此所が池、川、道路、宅地、畦畔、田、畑、原野、山林、何々小字、是れから是れが何々大字よりの飛地、何番から何番と各筆毎に地番の打具合、又は小字の此所から彼所に入り込み具合など、入念に調べつゝ製圖する時には、日常接見

報告をなしたのに、斯くの如き聲を耳にするのは誠に遺憾とする次第であります。

此の意味に於て我等の本縣統計課長川崎末吉氏の御説、且つ又關本町役場内池田穰氏の御説共に結構な吾意を得たる御説と歡讀致しました。
同職に有る諸君共に統計思想普及の爲め大いに力説宣傳せられん事を希望致します。
決して吾等は机上や聞取り空想等を以て、職に従事するものではありません、日々田畑に朝から晩まで作物を友として居る者です。

殊に本村は青年農を以て調査員に指名され、皆農事改良研究に心を盡し居り、競ふて稻作麥作立毛品評會に採種改良實行に、近代叫ばれつゝ有る農村振興、共存共榮の爲め米麥作多收穫、品種改良に各々向上心を以て村發展に微力乍ら献身努力致しつゝ有る者です

農家經營世帯主の作付反別を調査するに當つても先づ稻の出來具合を、區内全般の田圃を經巡りて視察し某氏の作りは上作、某君の作柄は下作と上中の作別を見定めて補助表を製し、而して是れ等の標準地を選定、粳糯別々即ち六ヶ所に各等別の坪刈旗を立て適當期是等を刈り取りて各々別々に乾燥し、一升の量を調査して見る時は、概して一坪の籾全量に於て少く、下作地の産籾の方が一升の量に於て重く、中作上作と云つた様に總量に於て多き

幸ひ事務上に於ては行方方郡統計事務所研究會長小貫三郎氏が本村統計主任の爲め、同氏指導の下に大いに研究討論し、統計の完璧を期したいと各員熱心に勉強してをるのです。

かくして各區の統計が集つて一村統計と成り、一村集つて一郡統計と成り

兩部長を顧問に

統計協會では先頃の總會において左記兩氏を顧問として推薦した

經濟部長 柴山 博氏
警察部長 八田 三 郎氏

一郡集つて一縣統計と成り、一縣集つて國家統計と成るのでありますから、何卒本務意外の諸氏も統計なるものを諒とせられ、冀くは吾等の國家的使命を益々鞭撻助長せしめられん事を熱望致します。